



普及だより たむら

No. 221

2019.6

編集・発行

福島県中農林事務所田村農業普及所

田村郡三春町大字熊耳字下荒井176-5

TEL (0247) 62-3113(代)

FAX (0247) 62-6069

ホームページ

田村農業普及所

検索

ごあいさつ (田村農業普及所長 菅野 雅敏)

令和という新たな年号になり、また、夏秋野菜の収穫時期を迎え、毎日、楽しく、元気に農作業に励んでいることと思います。

今年度も、所得向上や地域農業の活性化のため、気象状況に適応した栽培技術をいかに発揮し、安定した高品質化や単収アップを図っていただきたいと思います。

そのための参考情報として、「令和」最初となる「普及だより たむら」をお届けします。今後とも、管内市町・JA等と連携し、皆様の農業経営をサポートしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

新規就農者紹介シリーズ ～4組目～

◆田村市滝根町 平岡真実さん、恵美香さん御夫妻 (就農1年目)

平岡さんは、東京都で会社勤めをされていましたが、育児休暇を機に、子供がのびのびと育つような環境で子育てをしたいと思い、かねてから興味があった営農について、検討を始め、平成30年から、「田村地域就農支援プロジェクト」と就農に向けた相談を始めました。

相談を重ねるとともに、東京から田村市滝根町への移住や県内の先進経営体での研修を経て、今年2月に念願の就農を果たしました。

経営品目は、田村地方では珍しい「夏いちご」にチャレンジすることとしており、現在いちご栽培に向けた施設整備や直売野菜の栽培に奮闘しています。

平岡さんご夫妻は、先進技術の導入やこだわりをもった栽培により、高品質で美味しいいちごの生産に向け、勉強を続けており、将来的には、地域の幼稚園や小学校と連携した摘み取り体験の実施なども計画し、営農しています。

また、今年1月には、夫婦で家族経営協定を締結し、夫婦で認定新規就農者となり、農作業と子育てを両立した魅力的な農業経営の確立に向け取り組んでいます。



写真：平岡さんご家族

たむらで就農しませんか？

田村地方では、平成28年度に新規就農者のサポート体制を整備し、普及所・各市町・JAが中心となり、その他の関係機関・団体と密に連携し、就農希望者への支援を行っています。

今後も引き続き、新規就農希望者への相談・支援を行ってまいりますので、就農を希望している方や定年退職を機に農業を始めたい方はもちろん、農業に興味のある方も、気軽に普及所までご相談ください。

田村地方農業士協議会の活動について

「農業士」とは県から認定され、各地方で農業の先導的、指導的立場を担っている方々です。田村地方農業士協議会は、地域農業の抱える問題を解決するため、会員の力を結集し、以下の事項について積極的に取り組んでいますので、皆さんもいろいろご相談ください。

- 1 田村地方の農業後継者の育成指導：研修生の受入、新規就農者（予定者）などへの指導
- 2 地域農業活性化のための調査研究：先進地事例調査・研修、各種研修会の開催及び参加
- 3 地域農業活性化のための提言：田村地方農業普及推進懇談会への参加
- 4 安心・安全な農産物の生産と地産地消活動の取組
- 5 発展的、合理的農業経営の推進、家族経営協定の締結・共同申請の推進

農業士協議会の方々と経営内容を紹介します（敬称略）



会長
渡邊 義輝
常葉町新田作
葉たばこ+水稲



副会長
長谷川 和子
小野町湯沢
肉用牛+(肥育)



副会長
村上 民朗
三春町蛇石
水稲+野菜+キノコ類



壁谷 和男
船引町石森
水稲+野菜+作業受託



渡邊 文武
船引町芦沢
葉たばこ+水稲



陣野原 進
滝根町神俣
酪農



二瓶 峯子
滝根町広瀬
葉たばこ+水稲



猪狩 徳孝
大越町栗出
施設野菜+水稲
+作業受託



影山 明夫
三春町狐田
葉たばこ+水稲



渡辺 祐子
三春町貝山
菌床椎茸+ねぎ



吉田 政美
小野町上羽出庭
水稲+施設野菜



面川 仁
船引町新館
肉用牛(繁殖+肥育)



大橋 直哉
大越町下大越
葉たばこ+水稲



吉田 寛爾
都路町古道
施設野菜+水稲

集落の農業の将来について、考えてみませんか ～ワークショップのススメ～

普及所では、集落の農業を取り巻く各種課題（高齢化、担い手不足、遊休農地の発生等）に対応するため、集落の農業の将来を集落住民で話し合いながら進める集落営農を推進しています。

しかし、座談会では発言を躊躇する方も多く、活発な話し合いが難しいこともあります。

そこで、参加者1人1人が意見を出し合い、納得できる「集落の農業の将来像」を描くための手法として、「ワークショップ」を紹介します。

【ワークショップとは】

- ・参加者がアイデアを出し合い、話し合いを通じて、集落の意見を取りまとめる作業です。
- ・ここで紹介するワークショップは、1回に行う時間を1時間30分～2時間程度です。
- ・参加者5～10名程度で一つのグループを作り、各自がアイデアを付箋に書き込み、それぞれ発表し、似た内容をグルーピングして取りまとめます。

【ワークショップによる話し合いの実施方法（例）】

- ・1回目のワークショップでは「集落の農業を取り巻く現状（課題、強み）」を整理します。
- ・2回目では「将来の夢、あるべき姿」についてワークショップを行います。
- ・3回目では、2回目ですらまとめた「将来の夢、あるべき姿」について、「優先的に取り組む項目」「取り組む時期」等を検討します。
- ・これらを取りまとめることで、集落の将来像や活動計画を明らかにすることができます。



【ワークショップの良いところ】

- ・参加者全員の意見が反映される。多様な考え方を受け入れ、まとめることができる。話し合いの中から思わぬアイデアが出てくる。等

ワークショップに興味のある方は、お気軽に普及所までご相談ください

令和最初の「三春町ブルーベリー観光農園」オープン!! ～F G A P取得農園も併せて～

三春のブルーベリー栽培は、三春ダム周辺の耕作放棄地の解消を目的に、平成14年から始まり、最初は過足ブルーベリー生産組合が、省力・無農薬栽培ということで、平成16年に開園しました。その後、周囲に3つの摘み取り園が開園し、さらに、三春町の門馬稔治さん、橋本好恵さんの2名が、「ふくしま県GAP」である「F G A P」を平成30年度に取得し、計6ヶ所が開園することとなりました。

F G A Pは、「放射性物質対策」や「食品安全」など生産者自らが良い農業を実践するため取り組むべき項目を詳細に規定していることに特徴があり、県産農産物の風評払拭に期待がもたれています。

この6ヶ所のブルーベリー園が、今年の6月29日に摘み取り園を始め、直売やゆうパック、リキュール等の加工品などにより消費者にお届けします。普及所でも三春の特産であるブルーベリーの生産振興を支援していきます。



写真：たむらに実ったブルーベリー（昨年）

「JA福島さくらピーマン専門部会」が平成30年度 豊かなむらづくり顕彰事業（農業生産部門）を受賞しました！！

当部会は、全員がエコファーマーの認定を受けており、かん水作業の省力化のための「ソーラー自動かん水システム」の導入や、炭そ病多発地域での共同防除組織による防除など、生産力向上に積極的に取り組んでいます。震災後は、葉たばこの転換作物としてピーマンの作付がさらに推進され、年々単収、出荷量が増加するとともに、6次化商品開発にもつなげるなど、今後も、地域農業の振興に大きく寄与することが期待されます。

普及所では、これまで、JA営農指導員と一体となり、新規作付者の確保や栽培技術支援を行ってきました。選別機、集出荷施設、予冷庫の拡充整備の際には、補助事業の活用支援等、ピーマン生産基盤の構築を図ってきました。今後とも、新規就農希望者や定年帰農者等に対する経営・栽培に関する提案や助言をはじめ、担い手の確保・育成をサポートしていきます。



写真：授賞式で知事と記念撮影

「株式会社JA和牛ファーム福島さくら」運営開始！！（田村市常葉町）

（株）JA和牛ファーム福島さくら」は、JA福島さくらの子会社として、平成30年3月に発足し、平成31年3月28日に竣工式を迎えました。主な事業として、①福島県内初の取組となる、地域農家の繁殖雌牛や子牛を預かり、飼養管理や育成を行うキャトル事業（子牛50頭、繁殖雌牛30頭規模）、②自社で出産～育成し、子牛を出荷するブリーディング事業（100頭）に取り組んでいます。



写真：共同牛舎竣工式の様子

さらに、自給飼料生産・調製用機械やICTを利用した最新システムなどを導入しており、自給飼料生産面積の拡大と飼料の地域内流通の拠点として、また、新規就農者や担い手・後継者の研修機関として、地域の畜産振興に寄与していきます。

令和元年度 田村農業普及所 所内体制

所長

菅野雅敏

主幹兼次長兼地域農業推進課長

本馬昌直

地域農業推進課

- 宮島 聡 (花き)
- 佐久間 祐樹 (作物)
- 渡邊 鋼一 (畜産)
- 松崎 拓真 (作物)
- 安田 康二 (作物)



経営支援課

- 課長 根本 高志 (野菜特産)
- 佐藤 正武 (野菜特産) 小松 健太郎 (果樹)
- 鈴木 将稀 (野菜特産) 黒田 勲 (事務)
- 加藤 磨璃子 (野菜育休中) 我妻 昌彦 (野菜特産)
- 白石 芳雄 (畜産)



※下線は転入、及び新規採用者